

# デーヴォ ガイド



**2025.4.14-20**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

12:1 それからイエスは、たとえ彼らに話し始められた。「ある人がぶどう園を造った。垣根を巡らし、踏み場を掘り、見張りやぐらを立て、それを農夫たちに貸して旅に出た。12:2 収穫の時にあったので、ぶどう園の収穫の一部を受け取るため、農夫たちのところにしもべを遣わした。12:3 ところが、彼らはそのしもべを捕らえて打ちたたき、何も持たせないで送り返した。12:4 そこで、主人は再び別のしもべを遣わしたが、農夫たちはその頭を殴り、辱めた。12:5 また別のしもべを遣わしたが、これを殺してしまった。さらに、多くのしもべを遣わしたが、打ちたたいたり、殺したりした。12:6 しかし、主人にはもう一人、愛する息子がいた。彼は『私の息子なら敬ってくれるだろう』と言って、最後に、息子を彼らのところに遣わした。12:7 すると、農夫たちは話し合った。『あれは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、相続財産は自分たちのものになる。』12:8 そして、彼を捕らえて殺し、ぶどう園の外に投げ捨てた。12:9 ぶどう園の主人はどうするでしょうか。やって来て、農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるでしょう。12:10 あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった。12:11 これは主がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。』12:12 彼らは、このたとえ話が自分たちを指して語られたことに気づいたので、イエスを

捕らえようと思ったが、群衆を恐れた。それでイエスを残して立ち去った。

「農夫たちのところに」遣わされた「しもべ」とは、預言者たちのことです。そして「息子」とはイエス様のことです。イスラエルの人々が神に敵対してきた様子を表しています。ここではぶどう園を横取りしようとする強欲な人間の様子が描かれています。

欲を警戒しましょう。またそれだけでなく、これがイエス様の神の国についての教えであることを考えましょう。つまり信仰と不信仰について教えているのです。

イスラエルの人々は不信仰ではありましたが、神の国を乗っ取ろうとまでは考えていなかったでしょう。しかし、結果的にそのような徹底的な敵にまでなってしまったのです。それは不信仰を悔い改めなかったことの結果ですから、私たちも警戒が必要です。

神に従わないで、それでも自分の欲うあ主張を押し通そうとするなら、神と戦わざるを得ないのです。神のみこころを語る人にダメージを与え、語れないようにさせ、神のみわざを損なうようになってしまうということではないでしょうか。

光と闇には中間がないように、信仰と不信仰にも中間がないこと、またイエス様とともに集めない人は散らす人であるということを忘れないようにしましょう。主に従わないでいると、いつか主の敵になってしまうということも。ですから自分の不信仰な行いや生活に気づいていたなら、今悔い改めて、主の憐れみによって変えていただきましょう。そして主のみこころへと、希望を持ってチャレンジしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 15日 火曜

マルコ



14:1 過越の祭り、すなわち種なしパンの祭りが二日後に迫っていた。祭司長たちと律法学者たちは、イエスをだまして捕らえ、殺すための良い方法を探していた。

14:2 彼らは、「祭りの間はやめておこう。民が騒ぎを起こすといけない」と話していた。

14:3 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンのお家におられたときのことである。食事をしておられると、ある女の人が、純粋で非常に高価なナルド油の入った小さな壺を持って来て、その壺を割り、イエスの頭に注いだ。

14:4 すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんなに無駄にしたのか。」

14:5 この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」そして、彼女を厳しく責めた。

14:6 すると、イエスは言われた。「彼女を、するままにさせておきなさい。なぜ困らせるのですか。わたしのために、良いことをしてくれたのです。」

14:7 貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいます。あなたがたは望むとき、いつでも彼らに良いことをしてあげられます。しかし、わたしは、いつもあなたがたと一緒にいるわけではありません。

14:8 彼女は、自分にできることをしたのです。埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。

14:9 まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念とし

て語られます。」

14:10 さて、十二人の一人であるイスカリオテのユダは、祭司長たちのところへ行つた。イエスを引き渡すためであった。

14:11 彼らはそれを聞いて喜び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすればイエスをうまく引き渡せるかと、その機をうかがっていた。

14:12 種なしパンの祭りの最初の日、すなわち、過越の子羊を屠る日、弟子たちはイエスに言った。「過越の食事ができるように、私たちは、どこへ行って用意をしましょうか。」

14:13 イエスは、こう言って弟子のうち二人を遣わされた。「都に入りなさい。すると、水がめを運んでいる人に出会います。その人について行きなさい。」

14:14 そして、彼が入って行く家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする、わたしの客間はどこかと先生が言っております』と言いなさい。

14:15 すると、その主人自ら、席が整えられて用意のできた二階の大広間を見せてくれます。そこでわたしたちのために用意をしなさい。」

14:16 弟子たちが出かけて行って都に入ると、イエスが彼らに言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用意をした。

14:17 夕方になって、イエスは十二人と一緒にそこに来られた。

14:18 そして、彼らが席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうち一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ります。」

14:19 弟子たちは悲しくなり、次々にイエスに言い始めた。「まさか私ではないでしょう。」

14:20 イエスは言われた。「十二人の一人で、わたしと一緒に手を鉢に浸している者です。」

14:21 人の子は、自分について書かれているとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわいです。そういう人は、生まれて来なければよかったです。」

14:22 さて、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」

14:23 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、彼らにお与えになった。彼らはみなその杯から飲んだ。

14:24 イエスは彼らに言われた。「これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。」

14:25 まことに、あなたがたに言います。神の国で新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、もはや決してありません。」

14:26 そして、賛美の歌を歌ってから、皆でオリーブ山へ出かけた。

この女性のようにイエス様への愛を表しましょう。イエス様の贖いを心に覚えつつ。

- ①神のみこころは？
- ②どんな思いになりましたか？
- ③生き方にどう適用しますか？
- ④この世にあって何を実践しますか？

## ➤ 16日 水曜

マルコ

14:32 さて、彼らはゲツセマネという場所に  
来た。イエスは弟子たちに言われた。「わた  
しが祈っている間、ここに座っていな  
さい。」

14:33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを一  
緒に連れて行かれた。イエスは深く悩み、も  
たえ始め、

14:34 彼らに言われた。「わたしは悲しみの  
あまり死ぬほどです。ここにいて、目を覚ま  
していなさい。」

14:35 それからイエスは少し進んで行って、  
地面にひれ伏し、できることなら、この時が  
自分から過ぎ去るようにと祈られた。

14:36 そしてこう言われた。「アバ、父よ、  
あなたは何でもおできになります。どうか、  
この杯をわたしから取り去ってください。しか  
し、わたしの望むことではなく、あなたが  
お望みになることが行われますように。」

14:37 イエスは戻り、彼らが眠っているの  
を見て、ペテロに言われた。「シモン、眠っ  
ているのですか。一時間でも、目を覚まして  
いられなかったのですか。」

14:38 誘惑に陥らないように、目を覚まして  
祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱い  
のです。」

14:39 イエスは再び離れて行き、前と同じこ  
とばで祈られた。

14:40 そして再び戻って来てご覧になると、  
弟子たちは眠っていた。まぶたがとても重く  
なっていたのである。彼らは、イエスに何と  
言ってよいか、分からなかった。

14:41 イエスは三度目に戻って来ると、彼ら  
に言われた。「まだ眠って休んでいるのです



か。もう十分です。時が来ました。見な  
さい。人の子は罪人たちの手に渡されます。  
14:42 立ちなさい。さあ、行こう。見な  
さい。わたしを裏切る者が近くに来ていま  
す。」

イエス様の十字架の苦しみはここゲツセマネ  
から始まりました。三位にして一体である父なる神  
から捨てられることは、「悲しみのあまり死ぬほ  
ど」の苦痛なのです。しかも3年間ともに歩ん  
できた弟子たちは、イエス様への思いよりも眠気  
の方が優先で、その後の裏切りと逃げ去りを思  
わせるような悲しい態度でした。

その中で主イエスは、人間となられたゆえの弱  
さを抱えながら、すなわち肉体の苦しみと恐怖心  
と戦いながら、十字架へ向かう祈りをささげたの  
です。「この杯をわたしから取りのけてくだ  
さい。」と祈ったのは、自分の願いを押し通そう  
とするのではなく、「あなたがお望みになること  
が行われますように。」というように、主のみこ  
ころへと進む決心を固めるためのものです。

祈りとはこのように、主のみこころを知って従  
う決心を与えられるためでもあります。十字架の  
愛を受け継ぐ私たちも、それぞれの十字架を負  
うために、そしてその後の勝利と賞賛をいただく  
ためにも、主イエスの祈りを模範としましょう。主  
は「耐えられぬ試練にあわせることは(1コリ  
ント10:13)」されないからです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願  
いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなた  
の部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 17日 木曜

マルコ

15:1 夜が明けるとすぐに、祭司長たちは、長老たちや律法学者たちと最高法院全体で協議を行ってから、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。

15:2 ピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは答えられた。「あなたがそう言っています。」

15:3 そこで祭司長たちは、多くのことでイエスを訴えた。

15:4 ピラトは再びイエスに尋ねた。「何も答えないのか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているが。」

15:5 しかし、イエスはもはや何も答えようとされなかった。それにはピラトも驚いた。

15:6 ところで、ピラトは祭りのたびに、人々の願う囚人一人を釈放していた。

15:7 そこに、バラバという者がいて、暴動で人殺しをした暴徒たちとともに牢につながれていた。

15:8 群衆が上って来て、いつものようにしてもらうことを、ピラトに要求し始めた。

15:9 そこでピラトは彼らに答えた。「おまえたちはユダヤ人の王を釈放してほしいのか。」

15:10 ピラトは、祭司長たちがねたみからイエスを引き渡したことを、知っていたのである。

15:11 しかし、祭司長たちは、むしろ、バラバを釈放してもらうように群衆を扇動した。

15:12 そこで、ピラトは再び答えた。「では、おまえたちがユダヤ人の王と呼ぶあの人を、私にどうしてほしいのか。」

15:13 すると彼らはまたも叫んだ。「十字架

につけろ。」

15:14 ピラトは彼らに言った。「あの人がかような悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につけろ。」

15:15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思い、バラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。

マルコ福音書のテーマはいかなれば、”イエスがいかに力ある御父の働き手であるか”というものです。(その最たるものは十字架によるあがないです。)人間的に見れば、一般的に力ある者は雄弁で、自分の正しさを効果的に主張し、相手の心を動かして、自分の目的を成し遂げるといふものでしょう。しかしイエス様は違いました。「しかし、イエスはもはや何も答えようとされなかった」のです。

イエス様は全てを父なる神にお任せするという、最も効果的で力ある道を知っておられたからです。そして御自分の主張は控えて、父なる神のみこころのみを求めるといふ、最も雄弁な道を知っておられたのです。

私たちは自分の不利に際して、あせってあれやこれやと言いたくなるものです。または立場が悪くならないようにと、時には相手をやり込めたくなるものです。しかしそれは全く効果的ではなく、雄弁でもなく、非効率的であることを知りましょう。

全能の神のみこころに委ねること、これが本当に力ある者なのです。また、時には何も申し開きの機会が与えられないまま、悔しい思いをすることがあるかも知れませんが、そのときも御父に委ねることのすばらしさを感じましょう。イエス様と同じ道を歩み、栄光を見ることができるとははずす。



①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？





## 18日 金曜

マルコ

15:25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。

15:26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。

15:27 彼らは、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右に、一人は左に、十字架につけた。

15:28 【本節欠如】

15:29 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おい、神殿を壊して三日で建ててよ。」

15:30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」

15:31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒に、代わる代わるイエスを嘲って言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」

15:32 キリスト、イスラエルの王に、今、十字架から降りてもらおう。それを見たら信じよう。」また、一緒に十字架につけられていた者たちもイエスをののしった。

15:33 さて、十二時になったとき、闇が全地をおおい、午後三時まで続いた。

15:34 そして三時に、イエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」

訳すと「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

15:35 そばに立っていた人たちの何人かがこれを聞いて言った。「ほら、エリヤを呼んでいる。」

15:36 すると一人が駆け寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒に付け、「待て。エリヤが降ろしに来るか見てみよう」と言っ



て、イエスに飲ませようとした。

15:37 しかし、イエスは大声をあげて、息を引き取られた。

15:38 すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。

「十字架につけた」と簡潔に記述しています。しかしそこには、生きた人間を大釘ではり付けにするという残虐な行為、そしてその恐ろしいあらゆる出来事が含まれています。激痛による叫びがあり、苦しみによって体がよじれ、大量の血が流れました。

「イエスの着物」とあるのは、母が息子の成人のときに織り上げて与えるものです。それはユダヤの習慣で、息子は母の愛情を感じながらそれを一生大切にします。その母の愛を踏みこじるようにしてローマ兵はくじを引いたのです。

イエス様は強盗と同じ扱いを受けましたが、そうされることをあえて受け入れられました。強盗のように罪のある私たちであっても、イエス様は同じ立場に立ってください、罪を負ってください、同じ思いになってください、慰め励まし、守りつつ解決へと導いてくださいます。主イエスがおられることは何と安心なことでしょうか。ですから私たちは単に苦しみの解決だけに關心を向けるのではなく、自分の罪にも關心を向けるべきです。罪の赦しときよめこそが全ての解決だからです。

道行く人までもがイエス様を辱めましたが、イエス様はそれさえもあえてお受けになりました。もはやイエス様には人類の罪を贖うことだけが、その思いにあったのです。主の大いなるみこころを成し遂げようとするときには、このように自分の利害やプライドなどは小さなこととなります。それほど気持ちで主のために働きたいものです。

「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」ということばは、詩篇22篇にあります。イエス様はダビデがご自分の苦難のひな型であることを知っておられたので、このみことばを口に

たのでしょう。イエス様が旧約の預言・約束としてご自身が十字架に架かり、救いを成し遂げようとしておられることがわかります。

「大声をあげて息を引き取られた」という記述から、その苦しみが極みに達していたことが分ります。そしてイエス様の肉体は完全に死んだのです。そのとき「神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた」とあります。この幕は聖なる神と人間とを分ける幕でしたが、人類の罪をイエス様が負ってくださったことにより、聖なる神に人間が近づけるようになったことを表します。どんなときも、どんな魂の状態で、主に近づきましょう。そのための十字架の御苦しみだったのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 19日 土曜

マルコ



15:39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。「この方は本当に神の子であった。」

15:40 女たちも遠くから見ていたが、その中には、マグダラのマリアと、小ヤコブとヨセの母マリアと、サロメがいた。

15:41 イエスがガリラヤにおられたときに、イエスに従って仕えていた人たちであった。このほかにも、イエスと一緒にエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。

15:42 さて、すでに夕方になっていた。その日は備え日、すなわち安息日の前日であったので、

15:43 アリマタヤ出身のヨセフは、勇気を出してピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。ヨセフは有力な議員で、自らも神の国を待ち望んでいた。

15:44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いた。そして百人隊長を呼び、イエスがすでに死んだのかどうか尋ねた。

15:45 百人隊長に確認すると、ピラトはイエスの遺体をヨセフに下げ渡した。

15:46 ヨセフは亜麻布を買い、イエスを降ろして亜麻布で包み、岩を掘って造った墓に納めた。そして、墓の入り口には石を転がしておいた。

15:47 マグダラのマリアとヨセの母マリアは、イエスがどこに納められるか、よく見ていた

イエス様の十字架のそばには様々な人々がおり、女性もいました。当時女性はさげすまれていて、人数には入れられなかったのですが、神様は女性をも尊重し、男女に優劣はつけてはおられません。

ここでも多くの女性達が危険を顧みず勇気を持って、イエス様の側近くで見守っていました。それはイエス様への信仰の表れでもあります。当時の女性のように人々からは尊重されていないようでも、主から信仰が与えられたならば、強よめられてすばらしい働きをすることができます。主と主への信仰に可能性があるのです。

アリマタヤのヨセフは、サンヘドリン（イスラエルの最高決定機関であり最高裁判所）の有力な議員でしたから、イエス様が議会で死への尋問を受けておられたときも彼はそこにいたはずですが、そして今十字架のイエス様を見たときに彼は、まさにこの方が神の子であることを悟りました。イエスの遺体を埋葬するなどということは、その仲間であることを表明するのですから、その身に危険が及びますし、また議員としての地位もなくすことでした。

そしてこのことがイエス様の復活を明確なかたちとしました。墓からのよみがえり、そしてローマ兵やローマ当局の対応など、墓があったからその記録が残ったのであり、復活が明確になったのです。

主イエスが神であることを知ったなら、またその思いを新たにしたら、勇気を持って主のために、自分にできることをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 20日 日曜

### マルコ

16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリアとヤコブの母マリアとサロメは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。

16:2 そして、週の初めの日の早朝、日が昇ったころ、墓に行った。

16:3 彼女たちは、「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。

16:4 ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった。

16:5 墓の中に入ると、真っ白な衣をまとった青年が、右側に座っているのが見えたので、彼女たちは非常に驚いた。

16:6 青年は言った。「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。

16:7 さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』と。」

16:8 彼女たちは墓を出て、そこから逃げ去った。震え上がり、気も動転していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。〔彼女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間たちに短く伝えた。その後、イエスご自身が彼らを通して、きよく朽ちることのない永遠の救いの宣言を、日の昇るところから日の沈むところまで送られた。アーメン。〕



16:9 [さて、週の初めの日の朝早く、よみがえったイエスは、最初にマグダラのマリアにご自分を現された。彼女は、かつて七つの悪霊をイエスに追い出してもらった人である。

16:10 マリアは、イエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行って、そのことを知らせた。

16:11 彼らは、イエスが生きていて彼女にご自分を現された、と聞いても信じなかった。

マリアとサロメとはイエス様が復活することを明確に予期していたわけではありませんでした。それでもイエス様の遺体に香油を塗ろうと墓に行ったので、このように復活の第一発見者となることができたのです。その動機はイエス様への愛です。

イエス様は生前に、その足に香油を塗った行為を喜ばれ賞賛されましたが、周囲の者は無駄なことをしたと憤慨しました。その動機はイエス様への愛を表したいという思いです。

愛を表すことは非常に重要です。効率や生産性を考えるとどうかと思えることでも、それらがすべてではありません。愛を表しましょう。そこに主のみわがが表されます。

イエス様はよみがえられました。それは死への勝利を意味します。サタンの敗北です。これが私たちの希望です。サタンが敗北したということは、現代において私たちが苦難の中にあっても、かならず主の恵の計画が成就するということです。

大いなる希望を持ちつつ、それゆえに愛を表してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

